

止まらぬ円安、 39年半ぶりの安値更新が目前に

月

初に1ドル159円台半ばでスタートしたドル円は円安基調となり、足元では161円台半ばに到達している。この間、米国とイランが戦闘終結に向けた覚書を締結したことで、これまで貿易赤字拡大観測やインフレ懸念等を通じて円安要因となっていた原油高はかなり是正された。ただし、両国の協議は今後も難航が見込まれるため、市場の警戒感はなお燻っている。こうした中、米雇用情勢の堅調さに加え、ウォーシュ新議長の下でFRBがFOMCにおいてタカ派姿勢を強めたことが円安圧力を高めた。日銀は16日に利上げを決定したものの、市場では織り込み済みであったうえ、追加利上げに関する示唆も乏しかったため、円高材料とはならなかった。

今後も米国の利上げ観測が続くうえ、消費税減税や骨太の方針などを巡って本邦財政の拡張が意識されやすくなるとみられ、円安圧力の強い状況が続く公算が大きい。加えて、原油輸入の回復を受けて貿易赤字が拡大に向かうことや、早期利上げが困難な日銀がビハインド・ザ・カーブに陥るとの懸念が燻ることも円安材料となる。ドル円は161円90銭台を超え、1986年末以来、約39年半ぶりの円安更新が視野に入る。もっとも、そうした局面では政府による円買い介入が円安進行を抑制するとみられる。物価高への警戒を強める政府は、160円台半ばまでの円安進行を静観しないだろう。したがって、3カ月後の水準は現状程度と見込んでいる。

月初に2.6%台後半でスタートした長期金利は、足元でも2.6%台後半で推移している。原油高に伴うインフレ懸念や、良好な米雇用統計を受けた米金利上昇を背景に一時2.7%台へ上昇したものの、米国・イランによる覚書締結を受けた原油価格の下落によって金利上昇圧力がやや和らいだ。

今後は消費税減税や骨太の方針などを巡って日本の財政拡張への思惑が高まり、金利上昇圧力となりやすい。加えて、日銀がビハインド・ザ・カーブに陥るとの懸念が燻ることも金利上昇に繋がり得る。従って、3カ月後の水準は2.7%台と見込んでいる。



主席エコノミスト 上野 剛志

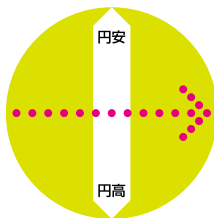
うえの つよし | tueno@nli-research.co.jp

1998年 日本生命保険相互会社入社
2001年 同財務審査部配属
2007年 日本経済研究センターへ派遣
2008年 米シンクタンク The Conference Boardへ派遣
2009年 ニッセイ基礎研究所

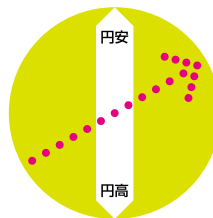


Market Karte

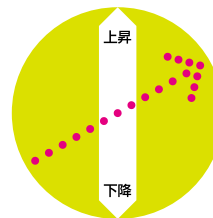
July 2026



ドル円・3カ月後の見通し

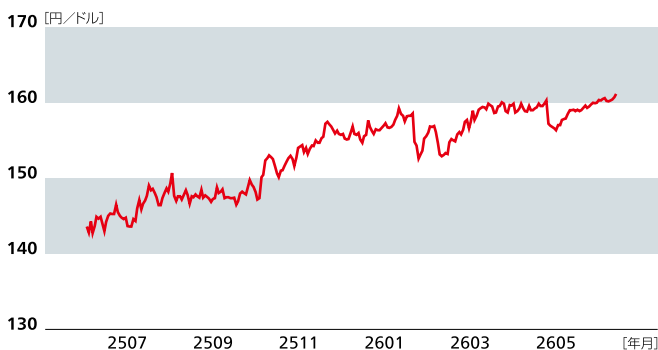


ユーロ円・3カ月後の見通し

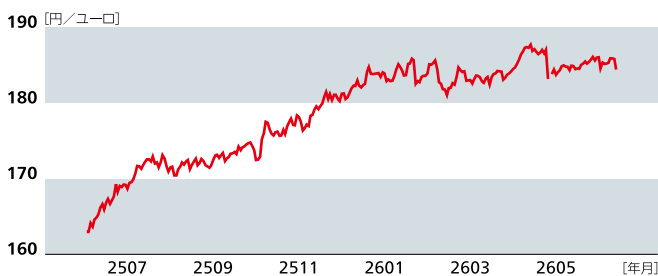


長期金利・3カ月後の見通し

ドル円為替レートの推移 [直近1年] 資料:日本銀行



ユーロ円為替レートの推移 [直近1年] 資料:ECB



長期金利(10年国債利回り)の推移 [直近1年] 資料:日本証券業協会

